

海藻の胸を縫つて泳ぐ様な魚、目もさめるような華麗なウミウシ、熱帯の花を思わせるようなヒトデの数々。私は幾度か植物採集にも、昆虫採集にも化石や貝類の採集にも出掛けたが礫の採集の妙味は格段である。

夜は講師を聞くでの座談会が樂しい。酒井博士は深い科学知識、科学体験を、向われるまゝに何の誇張もなく、学者らしい謙虚さで語って下さる。科學の興味の壽いものでも、知らず知らずに引き込まれて行く滾々として尽きない興味。一冊の科学書を読むに勝る収穫である。話のまことに、専自分の採集された標本や写生図等、取り出して見せて下さつたり、標本の作り方等々親切に指導下さる。親切は誠に有難い。

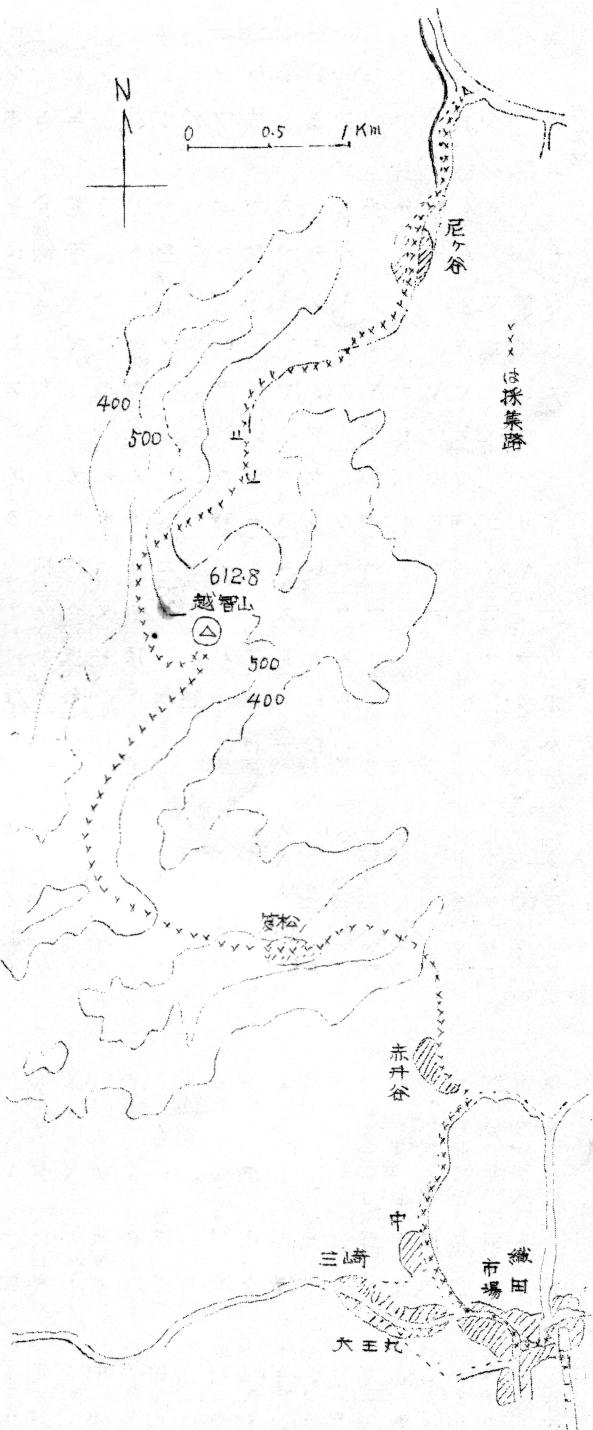
日本海の動物は、学界の未開拓地の由、採集に野心を持つ者は、先づ日本海を探るべきである。わけても敦賀湾は海女に荒されない海として、魅力が大きい。一尺四方の石の下に、バフンクニが數個もかくされて居る海は、福井県沿岸ではざらにはあるまい。来年は雄島か鷹巣の海に採集を試みる予定であるが、同好の士の多数の参加を希望して止まない。〔小林貞七記〕

丹生郡越智山植物採集記

本次の第一次植物採集会を、昭和28年5月17日丹生郡越智山方面で行った。午前7時福井駅前乗バス発車場に、指導者塙会長以下23名、更に下車場尼谷で案内者、前田又右エ門氏外2名、途中より丹生高校生2名、全部で27名の参会者があつた。

8時10分下車した一行は簡単な自己紹介の後、直ちに採集に取りかかつた。この附近には、ハルユキノシタ、ヌカボシソウ、イワハタザオ、コメガヤ、ニガナ、ジュウモンジシダ、クジヤクシダ、クマワラビ、スイバ、ヒヨドリバナ、ツルカノコソウ、キラシソウ、シャグ、シャク、ウマノアシガタ、ナワシロイチゴ、ヘビイチゴ、ニガイチゴ、オクノカンスゲ、等がある、山路を登るにつれ、イヌガンソク、ヤマジノホトトギス、オオバニガナ、ハナイカダ、シライトソウ、テンニンソウ、オオイヌノフグリ、チヂコグサ、スズメノヤリ、コナスビ、スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、コマユミ、シモツケ、カニツリグサ、ミミナグサ、ゴトウズル、イタビカズラ、シロダモ、シラキ、ヒメウツギ、等が現れる。タニウツギの桃色、ヤブケマンの紫色、ミヤマキケマンの黄色の花が美しい。オオタチツボスミレ、ツボスミレ、タチツボスミレが満開であり、水辺のホツコクネコノメソウ、チャルリルサツコチャマルメルソウも可憐である。谷川の邊を進むにつれ、オニタビラコ、ジヤニンジン、オオヘビイチゴ、オニイチゴツナギ、ミヅイチゴツナギ、ミズキ、ケンボナシ、タビラコ、クラスピシャク、ナルコスゲ、カキドオシ、ゲ

ジゲジシダ、クマノミズキ、チ
 ャザガニ、タケノコソウ、クサホ
 タン、オトコエシ、サノオノギ
 リ、テンニンノリ、が出て来る。
 尼谷部落の手前で休憩する。
 この附近には、カニツリグサ、
 メノマンネングサ、トウバナ、
 ヒメムグラ、シモツケ、イヌワ
 ラビ、ヒメウツギ、等が見られる。
 川端の石垣にクサノオウが
 黄色の花をつけている。帰化植
 物のドクムギがこの附近にも
 入り込んでいる。谷川にはワサ
 ピの自生が見られる。これ外に
 ミヤマイラクサ、トボシグラ、
 ヤマアイ、ムロフテンナンショ
 ウ、カフミドリ、コタニワタリ、
 アキカラマツ、カスマグサ、ス
 ズメノエンドウ、キジムシロ、
 アカネ、ヒメワラビ、ニガキ(開
 花中)、キブシ(果実あり)、アサク
 ラサンショウ(開花中)、クサソテ
 ツ、オシャグジデンダ、ハウチ
 ワカエデ、ヘンショウズル、ウ
 リノキ、オオベノヤエムグラ、
 ミヤマカタバミ、コチャルメル
 ソウ、タムラソウ、ヤマブキシ
 ョウマ、ツルハコベ、等山地の
 植物が見られる。特にイヌグン
 ソク、クサソテツ等の幹縁が美
 しかつた。次第に進むにつれ、
 シシウド、ヤナギバヒメジヨウ
 フユイチゴ、ダイモンジソウ、
 エビグライチゴ、サギゴケ、マ
 ルバマンネングサ、イワハタザ



オ、イリダンダ、カサスグ、エバヌリ、キツリフネ、ヤグルマギサ、アルマバナウ、等、草木に、ウラジロガシ、ミツバカエデ、ウリハダカエデ、ダンコウハイ、アブキ、サワグルミ、等の木本も見られる。サワグルミは丹生山地では珍らしい。

正午も大分過ぎたので谷川の辺で晝食を取る。これからや、けわらひ山道を歩くので、一列となつて登る。両側には、テツカエデ、ハクウミボノ、ミヤマハツツ、キンギマメザクラ、カワタタギ、クマシデ、マルバマンサク、ミズナラ、イヌシデ、クロウメモドキ、アロツバチ、タムシバ、サイフリボク、クマヤナギ、ミヤマクマヤナギ、ナンキンナナカマド、ウスギヨウラク、ツクバネウツギ、アカシデ、ツノハシバミ、コシアグラ、ホホバキ、ウリカエデ、ツクバネ、カマツカ、ヒメモチ、エゾエゾリハ、ムシクリ、コバノトネリコ(胸花中)サクラの一種^等が草木が多い。草木としては拓けた所に、マスキがあり、所々に咲くチゴニリの施情である。その外に、サンカクズル、アマドコロ、コカンスゲ、オイキヌクソウ、キヌタツク、フデリンンドウ、マツブサ、ツバナ等も見られた。頂上迄の道はかなり長いが、以上の植物が反覆するので、会員は記憶の整理に餘念がない。

从くて頂上えついに一行は、ふくよに脚元、ぎつしりつまつて野原を整潔にして帰途に向く。途中オオシナノキ、ミヅホオズキが見られ、松部落の道端の家に、ケマシソウやシジミバナの栽培されたものが印象的であった。

此のサフラは、その後太牛治三郎先生により、次を如く同定された。即ち
Prunus Pseudo-Sargentii Chi, by br. nov (Prunus Sargentii X P. VEREOLIA)
エチゼンザク=(エゾヤマザクラとクスミザクラとの雑種) (寒蟬義一記)

今立郡權現山植物採集記

第2回採集会を昭和28年6月14日、今立郡眼向村權現山で行つたので、その大略を報告する。

午前7時西鰐江発駅前行バスに乗つて一行は7時40分鐵橋につき、ここで徒歩や自転車による者を含めて20名の参加者を得て、云々8時から採集会を行つた。

こゝから山麓迄約4kmは、田の中を走る平坦な道で普通原野の植物が多く、本日の指導者塙先生は初歩の人々に懇切に指導をされた。

このあたりに見られる植物は、

チガヤ、ドジョウツナギ、ムツオレグサ、カニツリグサ、カモジグサ、ヌカボ、シバ、ナキナタガヤ、トボシガラ、スズメノテツポウ、チヂミザサ、ゴ